

由井 浩

亥年の神社

今年の干支の亥・イノシシに縁がある神社について調べると、愛宕神社がその一つであることがわかった。全国に900社ある愛宕神社の総本社である京都府の愛宕神社は、奈良時代に前身である白雲寺がイノシシに縁がある和気清麻呂によって建立されたために、イノシシに関わる神社とされている。

今年の初散歩に、総本社の京都の愛宕神社は遠すぎて行けなかったもので、東京・港区にある愛宕神社に行った。この神社は海拔26mの愛宕山の頂にあり、都心では一番高いところにある神社ということが人気を集めているせいか、1月10日過ぎの平日にもかかわらず多くの参拝客で境内は賑わっていた。



愛宕神社境内

今は境内に木々が鬱蒼と茂り、周囲は高層ビルに囲まれているために、遠方の眺望には不向きであるが、ここは江戸時代には江戸の市街や富士山などを見晴らす名所だったようだ。慶応4(1868)年3月に幕軍の将勝海舟が官軍の参謀西郷隆盛をこの山頂に誘い、眼下に見る大江戸の繁華な市街が火まみれとなることを憂い、西郷に江戸城無血開城を決断させたという愛宕神社のパンフレットに書かれている故事を読み、目を閉じて当時のここからの眺望を想像しながら、惨禍を寸前で阻止した風景の力の凄さを感じ取った。

思いがけず歴史の舞台に立ったという感慨は得られたが、イノシシの像は見つけられなかった物足りなさが残ったので、1月25日に大阪で行われるある会の賀詞交換会に参加した後、翌日に京都に行って京都の神社でイノシシの像を写真に収めることにした。愛宕神社の総本社に行くことも考えたが、京都の西北の山中にあるこの神社にはバスの終点の清滝から約2時間歩かないと行けないことがわかったのでここは断念して、京都御所の近くにある護王神社に行くことにした。

護王神社のホームページによれば、この神社は平安京の建都に貢献した和気清麻呂を祀る神社で、はじめは洛西の高尾山神護寺の境内に清麻呂公の霊社として祀られ、“護法善神”と称されていたが、明治7(1874)年に“護王神社”と改称され、明治19(1886)年に京都御所蛤御門前の現在地に社殿を造営して移転された。和気清麻呂は奈良時代に絶大な権勢を誇っていた僧・道鏡の怒りを買って流罪となって鹿児島に下る途中刺客に殺されそうになった時に、300頭のイノシシが現れて助けてくれたという。彼を守ったイノシシの話は後世まで語り継がれることとなった。このような由緒があって、護王神社は“いのしし

神社”と呼ばれて親しまれている。

1月26日の土曜日にこの神社を訪れた時は、雪がちらつく天候にもかかわらず大勢の参拝客が来ていて、鳥丸通りに面した鳥居の前と拝殿の前にある猪イノシシの像を珍しそうに眺めたり、写真を撮ったりしていた。



←護王神社

鳥居前の猪イノシシ



境内には至るところにイノシシの像が置かれていた。



飛翔親子猪



霊猪手水舎



なで猪

多くのイノシシ像を写真に収めることができた満足感に浸った後に、鳥丸通りの向う側にある京都御所の蛤御門に行った。ここは元治元（1864）年7月に尊王攘夷を掲げる長州藩と会津藩・薩摩藩を中心とする幕府勢力が激突した蛤御門の変の舞台で、開戦当初は長州藩が優勢だったが、西郷隆盛率いる薩摩藩の参戦で戦局は逆転して長州藩の敗北に終わった。



京都御所蛤御門→

イノシシに誘われて東京と京都の2つの神社を巡りながら、幕末の西郷隆盛の活躍の跡も追いかけることになった今年の正月だった。